

【熊本県地域婦人会連絡協議会賞】

「人を笑顔にする」未来へ

上天草市立大矢野中学校 2年 木下 友花

「人を笑顔にする仕事がしたい」

私がそう思うきっかけとなったのは、道徳の時間に読んだ、熊本の心にある「橋にかけた夢」に強く感銘を受けたことです。

私は初めて「橋にかけた夢」を読んだとき、森慈秀さんが橋を架けたときの、天草の人々の喜ぶ姿が強く印象に残りました。最初は、「海に橋が架かるなんてありえない」と思っていた人たちが、少しずつ森さんの熱意に動かされて架橋への夢を実現させようとしていく姿からは 真摯に夢と向き合い続ける森さんへの尊敬や、橋が架かって天草が発展していくことへの希望を感じられました。そして、当時の島民の方々だけでなく、その後の時代を生きる私たちにまで快適な生活を届け続けている森さんのすごさを改めて感じました。

また、「橋にかけた夢」について、後から改めて考えてみたときに、夢を追うのに、年齢は関係ないということも感じました。なりたい職業に付くことや、一度の成功をゴールにして満足してしまうのではなく、60歳を超えて、叶うかわからない橋をかけるという夢を追い続ける森さんの熱い思いや粘り強さに触れ、改めて周りを見てみると、私の周囲の大人たちの中にも、自分の職業で社会の役に立つために日々努力を続ける人たちがいることに気がつきました。

私は今、橋を架けたり、建物を建てたりする建築士の仕事に興味を持っています。国語の授業の一環で、職業ガイドを作るために調べていた建築士という仕事に、「橋にかけた夢」を通して、改めて魅力を感じました。特に、建築士の仕事について調べたときに何度も出てきた、「人を笑顔にできる」というフレーズに心を打たれました。

そして私は、建築士を目指す第一歩として、学校の勉強をより一層頑張ろうと思います。目標を達成するために勉強でも、部活でも、日頃から諦めずに努力し続けることが、将来、私が夢を叶えられることに繋がっていく信じています。これからもしかしたら、夢を投げ出したくなるようなことや、夢を否定されてしまうようなことがあるかもしれません。しかし、どんなときも初心を忘れず、たくさんの人を笑顔にできるように、自分が夢を叶えられるように、未来に向けてどんなことにも全力で、絶対に諦めない！という強い思いを持って取り組んでいこうと思います。